

(77)

氏名(生年月日)	馬 場 園 哲 也
本 籍	
学位の種類	医学博士
学位授与の番号	乙第1155号
学位授与の日付	平成3年2月15日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)
学位論文題目	透析導入後の予後からみた糖尿病性腎不全患者の至適導入時期の検討
論文審査委員	(主査) 教授 平田 幸正 (副査) 教授 杉野 信博, 降矢 熒

論 文 内 容 の 要 旨

目的

従来より糖尿病性腎不全(DRF)では、比較的早期の透析導入が必要であるとされてきたが、導入時期と予後の関係についてはまだ検討が不十分であった。今回はDRFにおける透析導入時の溢水状態と、血清クレアチニン(Cr)とを取り上げ、これらと導入後の生命予後との関係を prospective に検討した。

対象および方法

1978年12月から1989年4月までの間に当科に入院し、透析を開始したDRF 152名(男性97名, 女性55名, 年齢 53 ± 13 歳, 平均値±標準偏差)を対象とした。これらのうち、肺水腫、高度の末梢浮腫などの溢水のため導入した65名をA群、溢水がないか、軽度であった87名をB群とし、さらにB群を導入時のCrが7-9mg/dlのB1群と、9mg/dl以上のB2群に分類した。以上の各群の透析導入後の経過を最長8.5年まで観察し、予後を比較検討した。

結果

導入時溢水が高度であったA群の導入時Crは 8.1 ± 2.8 mg/dlであり、溢水が軽度であったB群の 9.5 ± 2.2 mg/dlに比べ有意に低値であったが、両群の5年生存率および50%生存期間は、A群43%および3.4年、B群50%および4.7年であり、B群に比べA群の予後は不良であった。一方、B1群(導入時Cr 7.8 ± 0.8 mg/dl)およびB2群(同 10.8 ± 2.0 mg/dl)の5年生存率および50%生存期間は、B1群55%および8.3年以上、B2群46%および3.7年であり、B1群はB2群に比べ良好な予後成績を示した。

考察

導入時溢水が高度であったA群では、導入時のCrが低いにもかかわらず、予後が不良であることが認められた。溢水が軽度な患者を導入時のCrで分類し予後と比較すると、7-9mg/dlの時期に導入したB1群は、それ以上で導入したB2群に比べ50%生存期間で4年以上の差がみられた。なお溢水がないまま透析をせずに、Cr 7-9mg/dlのDRFが9mg/dl以上に達するまでの期間は、通常半年以内である。以上より、DRFでは高度の溢水を起こす前に透析を開始することが適切であり、さらにCrが7-9mg/dlの時期に導入することが望ましいと考えられた。

結語

DRFにおいては、溢水が軽度であってもCrが7-9mg/dlの時期に導入することは、長期予後の点からみて有利であることを示すことができた。

論文審査の要旨

従来より、糖尿病性腎症においては慢性腎炎に比べ、早期の透析導入が薦められてきたが、早期導入の必然性を具体的に評価した研究に乏しかった。本論文は、たとえ溢水が軽度であっても、血清クレアチニンが7.0—9.0mg/dlの時期に導入することは、糖尿病性腎症患者の長期予後からみて有利であることを明らかにしたものであり、臨床的、学術的に価値あるものと認める。

主論文公表誌

透析導入後の予後からみた糖尿病性腎不全患者の至適導入時期の検討

日本透析療法学会誌 第23巻 第11号
1245-1251頁 (平成2年11月発行)

副論文公表誌

- 1) 紫外線照射によるバッグ交換システム (ultra-violet germicidal CAPD exchange device) により CAPD が可能となった高齢の糖尿病性腎不全の1例
腎と透析 25 (4) : 225-230, 1988
- 2) Modulation of prostaglandin metabolism by K-MAP and prevention of toxic effect of cyclosporin on pancreatic islet cells (K-MAP によるプロスタグランジン代謝の調節とシクロスポリン膵島障害の予防)
Diabetes 38 (Suppl 1) : 120-125, 1989
- 3) 糖尿病患者の透析療法
内科 64 (1) : 55-58, 1989
- 4) 糖尿病性腎症における高カロリー-蛋白制限食の効果
糖尿病 32 (3) : 155-160, 1989
- 5) 重症疾患を合併した糖尿病性腎不全患者に対する continuous equilibration peritoneal dialysis (CEPD) 療法の検討
日透析療学会誌 22 (8) : 859-864, 1989
- 6) 血液透析が誘因となって出血性脳梗塞をきたしたと考えられた糖尿病性腎不全の1例
日透析療学会誌 22 (9) : 1007-1010, 1989
- 7) 慢性関節リウマチおよびバセドウ病を合併したインスリン依存型糖尿病 (IDDM) の1例
糖尿病 32 (10) : 761-765, 1989
- 8) 糖尿病性腎不全患者の CAPD 療法における紫外線滅菌によるバッグ交換システム (ultra-violet germicidal CAPD exchange device, UV システム) の有用性
日透析療学会誌 23 (1) : 89-92, 1990
- 9) 糖尿病患者における CAPD 療法
腎と透析 29 (4) : 613-616, 1990
- 10) Clinical profile of Japanese dialysis patients with diabetic nephropathy, diagnosed as having diabetes before the age of thirty (透析に導入した30歳未満発症日本人糖尿病患者の臨床像)
Diabetes Res Clin Pract 10 : 127-131, 1990